

平成23年度 山形のみちづくり評議会（第3回）

議事要旨

1. 日時

平成24年2月10日（金）14:00～16:00

2. 出席委員

柴田会長、貝山委員、福田委員、早坂委員、宮原委員、池田委員、小山委員、
豊島委員、手塚委員、鹿野委員

3. 議事

- 1) 「東日本大震災を踏まえた山形県道路中期計画の進め方（案）」について
- 2) 事故危険区間対策事業（H23取組み状況・H24予算要求概要）について

4. 議事概要

○東日本大震災を教訓として、現行の「山形県道路中期計画」における各種施策等について、主に防災・減災の観点からその進め方を補足するためにとりまとめた「東日本大震災を踏まえた山形県道路中期計画の進め方（案）」について事務局より説明を行った。

・資料のとりまとめ内容、記述について意見交換がなされた。

○事故危険区間対策事業について事務局より説明を行った。

・対象箇所選定のあり方、事業の進め方について

・まちづくりとの関係について

などについて意見交換がなされた。

5. 山形のみちづくり評議会（第3回）における主な意見

【中期計画の中でも加速すべき取り組みについて】

（1）〔基本的な視点について〕

- 想定外のことが起きたときに大丈夫かという観点で山形県の道路を見ることも必要ではないか。
- 雪が降ったときに地震がおきたら大丈夫かという観点でも見ておく必要がある。
- 我々に必要なのは、災害があったときに周辺からのネットワークで応援が得られるようにするために、道路のどこに問題があるのかというところ。
- 橋梁・盛土以外に、トンネルに伴う出入口の急斜面の管理（雪崩対策など）についても今後の耐震対策の上で重要。
- 季節的な要因というのを考えなくてよいのか。
- 仙台を中心に経済機能が集中していたことで、ガソリン不足など山形は混乱した。経済機能を分散させるべきで、その手段として道路をきちんと整備し企業立地を促進していくという考え方が必要。
- 今回の地震においてネットワークの問題で人的・物的な移動の面で困ったことがあったということを示すことで、ミッシングリンクをなくすべきだろうという主張につながる。

（2）〔これまでの対策・取り組みの成果について〕

- 山形県も被害を受けたが、これまでの整備や保全・維持などの成果として、大きな被害はなかったと記述しておいてはどうか。
- 県内に多少被害はあったものの、これまで進めていた施策で対応できている部分もあるが、太平洋側のことを見ると、今回山形県では影響を受けなかったところについても大きな影響を受ける可能性があるため、そこのところはきちんと取り組むべきという書き方になるのでは。

（3）〔県内の被害の概要について〕

- 山形県における被害の概要を入れたほうがよい。
- 道路が寸断されたことは、いろいろ経済的にも影響を及ぼしており、そのような影響の事実を書いたほうが、道路の役割がより確かになる。

（4）〔検証の方法について〕

- 施策の推進と検証とあるが、検証の仕組みや方法について、載せておく必要がある。
- 元々の「中期計画」と今回取りまとめる「あり方」の関係や計画期間をもう少し分かりや

すくした方が良い。

(5) [交通量変化への言及について]

- 112号と47号の交通が載っていないのはなぜか。
- 交通量が減った原因については、ベースが落ちた影響なのか、それとも何か遠ざける要因があって落ちたのかというところは分析が難しい。引き続き可能なデータを集めていく。

(6) [津波対策への言及について]

- これからの計画では津波を意識した路線ルートを考えるということを入れた方がよい。
- 「道路網維持のための耐災性の確保のあり方」のところに、津波を意識した取り組みを入れたほうがわかりやすい。
- 新たな視点として防災と減災の二段構えとしているが、もう少し分かりやすく事例を入れてはどうか。

(7) [停電の影響への言及について]

- 停電になっても道路が使えるようにするという意味で、非常用電気に触れておく。
- 道路機能を維持するには、信号に例える話が分かりやすい。信号が機能するためには自主電源を確保することが必要である。

(8) [情報提供について]

- 支援物資を持って行くのにどの道路が使えるか非常に迷い、途中からいけなくなって迂回をしたこともある。すぐ復旧できる道路も求められるが、情報もいち早く欲しい。
- 民間ともリンクし、いろいろなところから情報が上がり、一緒になって震災復旧の応援をしているということを知らせてほしい。

(9) [道の駅の取り組みについて]

- 今回、道の駅は随分いろんな役割を果たした。今後もっと活用あるいは役割を付加していくべきである。

(10) [表現の修正について]

- 「3-2山形県内での地震災害リスク」において、4つの活断層地震と日本海東縁部地震が混同されているようで、分かりにくい。

【事故危険区間対策事業について】

[事故について]

- 事故が冬に多い時、カラー塗装は意味があるか。
- 道を広げるだけでなく、ヒヤリハットの状況を提供するなど民間とうまく連携できないか。
- ナビ会社に情報提供する仕組みを検討してもらいたい。
- 歩行者側にヒヤリハットを教えて注意してもらい、車側は交通規制するしかない。
- 対策前後を比較するときは、前と後、同じ視点で撮影する。

[自転車について]

- 日本全体で自動車から、徒歩や自転車にシフトするという時に、一番問題になるのは自転車である。山形県でも自転車をどう考えるかということを議論しておいてほしい。

以上